別記様式

会　　議　　録

会議の名称	第４回　鴻巣市立小・中学校適正配置等審議会
開催日	令和４年５月31日（火）
開催時間	開会　18時30分　　閉会　20時30分
開催場所	鴻巣市役所　本庁舎　３階　303会議室
議長（会長） 氏　　名	会　長　　石　﨑　一　記
出席者（委員）氏名 （出席者数）	石﨑一記（会長）　　佐藤芳隆（副会長） 吉田全利、初貝博幸、奥山龍一、奥木美恵子 関根 勇、宮田忠夫、吉田大樹、酒巻喜久子、藤原将人 （11名）
欠席者（委員）氏名 （欠席者数）	土橋 純、代みさき、眞鍋　透　（3名）
事務局職員 職　氏　名	教育部長　齊 藤 隆 志 教育部参与　大　島　進 教育部副部長兼学務課長　上　岡　勝 教育部副部長兼教育総務課長　鳥 沢 保 行 教育総務課主査　新 井 洋 平 教育総務課主任　堀　智　紀 学務課主事　石 井 亜 季
傍聴の可否 （傍聴者数）	可（傍聴者６名）

会議次第	1　開会のことば 2　会長あいさつ 3　議題 　　諮問事項についての審議 4　閉会のことば
配布資料	資料１　意見交換会要旨 資料２　鴻巣市立小・中学校通学区域審議会（吹上小学校・大芦小学校）の経過 資料３　小中一貫教育校の概要 資料４　小中一貫教育校と義務教育学校の比較

会議の内容	（主な意見と見解） ・小中一貫教育について、平成 27 年 8 月の諮問に関する答申と今回の諮問の関係はどのように考えればよいか。 ⇒平成 29 年に適正配置等審議会からいただいた答申における諮問事項は三つ。そのうちの一つが小中一貫教育となっており、坂戸市の城山学園の成果における研究、それと、小中一貫教育推進連絡協議会との連携に努める必要があるという旨の付帯意見となっている。また、児童のよりよい環境の整備充実について保護者や地域の方々の理解を得られるよう情報提供を適宜進める必要があるということもいただき、城山学園に限らず、他市の事例等を見ながら、川里小学校 3 校と川里中学校における、小中の連携教育を進めてきている。この取組を止めるというよりは、推進していくべきで、そのためには、今まで分離型で行っていた小中一貫教育を、隣接型、一体型にして、連携を深めていきたいと考えている。 　前回の答申を受けて、その流れの中で、今回の諮問がある。 ・常光小学校の 1 年生は 9 人で、男子児童は 6 人、女子児童が 3 人という男女比になっている。下校の際は、常光小学校から桶川方面に帰る児童が、一人だけとなってしまい、毎日、保護者が迎えに行っている。 　そういった面も考慮し、スピード感をもって、皆さんの意見を聞きながら、早めに統合してほしいという意見を聞いている。 ・6 月 12 日の常光小学校の説明会について、在校生の保護者や、未就学児の保護者については申込不要になっているが、それ以外の地域の方は、申込みが必要となっている。それにより、参加者も限られてくると思うので、少し考えてほしかった。 ⇒新型コロナウイルス感染症対策のため人数制限が必要との観点から参加者数を把握する必要があったため。 ・笠原小学校の統合に対する意見は様々だと思うが、私の耳に届いてくるのは、鴻巣中央小学校の先生方が丁寧に対応してくれ、大きな不安を感じることなく通学し、子どもたちも楽しくやっているという声である。 ⇒教育委員会の職員も定期的にスクールバスに乗車して、子どもたちの様子を確認している。当初は、緊張している様子が感じ取れたが、現在では、バスの中が、非常に賑やかになり、鴻巣中央小学校での生活を聞くと、友達もたくさんでき、楽しいということを言っている児童もいる。また、あくまで、結果論

会議の内容	でもあるが、笠原小学校で不登校気味であった児童も、鴻巣中央小学校に通うことができている。現時点では、問題なく、通学ができている。 ・ボランティア活動を通して、笠原小学校に在籍をしていた、児童２名から鴻巣中央小学校での話を聞いている。受け入れ体制も柔軟と感じており、子どもたちも、スムーズに楽しく通学できているということを確認している。 ・PTA 連合会の場で出た意見として、３月に諮問、７月に答申という審議会のスピード感は早すぎるとのこと。意見交換会についても、意見を出させたことで、終わってしまうということにはならないでほしい。全て納得することは難しいと思う、保護者が理解して進めることができるよう、行政として丁寧に伝えていくことが必要。 ・少人数の学校が肌に合うという子どもは一定数いる。規模としては適正でも、結果として子どもたちの心理面や先生たちの負担が増えてしまうことは当然でてくるところだと思う。そういったことに対するケアや、地域の良さというところをうまく踏襲できるような形で進めてほしい。 ・今後、地域の皆さんと意見交換を行うと思うが、保護者以外の者が発言することにより、保護者の方が発言しづらくならないよう、意見交換会の運営をしてもらえればと思う。 ・統廃合の問題は、一旦崩れると、その地域では全然話が進まなくなってしまう。そこで終わってしまうと、再開しても、なかなか上手く進まない場合もあることから、色々な意見を聞いた上で、慎重に進めてもらいたい。 ・地域コミュニティにとって、学校は重要な拠点であることから、変化はあるが、機能としての学校がなくなることで、地域のコミュニティがなくなるということではない。今回の統合を新しいコミュニティ作りとして、捉えてもらえればと思う。 ・吹上地域は、今後の見通しについて、一定の幅を持たせての計画だと思うが、どのような見通しを考えているのか。 ⇒北新宿地区の通学区域は、通学路の安全性が確保できないことや、一つの小学校から一つ中学校に進学することなどから、一定の経過措置を設けた上で、吹上小学校から下忍小学校に変更となった。

会議の内容	今年の 7 月頃に、下忍小学校への転校に関しての意向確認を予定しているので、今後の吹上小学校の児童数の推移を見ながら、具体的な統合年度を検討していきたい。 ・北新宿の学区変更は、基本的には移り住んできた方が多いと思うので、吹上小学校に行きたいというよりは、そこの地域に新しく根ざしていこうという方が多いと考えることから、変更するなら早い方が良い。 段階的な措置を取るという事であれば、その間に保護者も将来を見据えた対応ができると思う。 ・大芦小学校、小谷小学校は笠原小学校の時と同様に、一斉に移動してもらうという認識でよいか。 ⇒閉校となった場合は、笠原小学校の時と同様に、何年度と決めて一斉に転校してもらうことを考えている。 ・北新宿地区の通学区域変更の際は、地域住民に対しての説明会がなかったということを聞いたが、今後、地域に対しての説明会は行われるのか。 ⇒北新宿地区は、今回の適正配置等と違い、通学区域の見直しとなっている。通学区域審議会の委員には、小学校の PTA や、自治会の方にも出席いただいており、代表の方から意見をいただいていることから、あえて地域全体にというよりも、該当する保護者に対して説明会を開催したことから、説明会という形をとる予定はない。 ・吹上地域における適正配置等の取組の中で、通学区域の見直しは入らないか。例えば、小谷小学校の通学区域について、武蔵水路付近まで小谷小学校の通学区域だが、そのあたりは箕田小学校の方が近い。 ⇒小谷小学校ではなく、箕田小学校に行きたいと教育委員会に相談に来られる方はいる。中には、赤見台第二小学校が近いという方もいるが、現時点では対応できない。 審議会で議論するというよりも、今後、説明会を開催する中で箕田小学校や、赤見台第二小学校への就学希望等の意見が出る可能性もある。 教育委員会としては、基本的に、同じ地区は同じ学校に行ってもらいたいと考えているが、将来的な児童数の推移や、地区ごとの意見を見極めながら、今後、通学区域審議会に諮るのかどうかというところも踏まえて、検討していきたい。

会議の内容	・以前は鴻巣市内でも学校を選択できるような地区があったと思う。保護者が選択できることも考えていいのではないか。 ・小学校は 150 年間近く同じ場所にあり、その後に住宅が建てられる。家庭により距離に違いがある。 　通学区域を考える際に一番優先されるのは安全性。昔と今では、住宅の配置が変わってきており、対応できていないところもあるのではないか。学校は簡単に移動できないので、ある程度の弾力性を持たせてもよいと思う。 ・保護者の意見の中には、クラス替えはなかったが、必要性を特に感じなかったという意見がある。 　しかし、小規模校の良さは十分に認識しているが、人間関係の固定化や男女比の問題等がある。例えば、共和小学校の６年生の男女比は、男子が７名、女子が２名と偏っている。 ・川里地域では、小中一貫教育を以前から行っており、小中の連携だけでなく、林間学校の交流等、小小の連携も行われている。 　また、小中の教職員同士も、夏休みに様々な課題を持ち寄って、研修をすることで、繋がりもできている。他にも、地域の方を含めて推進懇談会というのも行われている。 　連携することで、様々なことがスムーズに運ぶのではないかと考えている。連携するのであれば、同じ場所にまとまった方がやりやすいとも思う。 ・常光小学校、小谷小学校、大芦小学校、川里地域の３小学校も同様に考えの中心が思い出であってはいけない。中心は子どもの教育、子どもにとって一番良い教育環境を我々大人が作ることが、大事だと考えている。 　川里地域については、３校と中学校が一体となることで、新たな可能性が出てくると思っており、将来性を感じる。子どもがどのように成長するのか、子どもの成長や発達にとって何が一番なのかということを考えると、小規模校の良さは認識しているが、基本的には、ある程度の規模を持って小学校を運営していくということが望ましいと考えている。 ・川里地域に新しい学校を作る中で、仮に置いてかれてしまう子どもがいた際には、どのようなケアを行って、次の段階にステップアップしてもらうのか、また、不登校にならないで済むのか、その体制づくりも考えてほしい。

会議の内容	・学校は子どものことを第一に考えるべきだが、子ども、保護者、地域に加え、教職員のことも考えるべき。全学年が単学級のような小規模校では教職員の負担も大きいと思われる。 　新任の教職員の離職率も全国的に上がっており、教職員の不足がこれからの課題でもあると考えることから、教職員の負担という面も考えて、この審議を進めたい。 ・小中一貫教育の素晴らしさは資料を見ただけではなかなか伝わりづらい部分がある。意見交換会を行う際には、映像などを用意した方が良いのではないか。 ⇒今後、義務教育学校等に視察に行き、動画を撮影させていただく予定。次回の審議会等で放映したい。 ・スポーツの話をさせてもらうと、上尾市やさいたま市など、ある程度子どもたちの人数が揃っているところは、スタッフや体制も整っており、一つの技術を習得する度合いも明らかに早い。これはスポーツに限った話ではないと思う。 ・共和地区の「蛍の集い」、屈巣地区の「おやじの会」などの活動により、地域が非常に活性化している。これは統合後も絶対に絶やしてはならない。どのように組み込み、地域として関わっていくのかというのは、慎重に検討していく必要がある。 ・常光小学校の１年生は９人だが、中学校から友達を作るより、早くから、鴻巣中央小学校に通学し、多くの友達と接することで、色々な友達を作りたいというような意見もある。 ・今、色々と反論が出てきているのは、この話が急に出てきたという印象があるからだと思う。審議会の答申が７月頃という話のみが聞こえきて慌てている。 　数年前から小中一貫教育の流れの積み上げという部分があり、突然に出てきた話ではないというのは確かだが、当事者になってみると、慌てて話が出てきているように感じられ、結論ありきで行っているように思え、そういったことが反論に繋がっている。

会議の内容	・本来であるならば、まちづくりのマスタープランがあって、住宅街ができ、人口の比率がどのように変わっていくということを見越して、その一つの取組として、学校のあり方も考えていかなくてはならないが、様々な要因により、教育が十分でないと考えられた際には、まちづくりよりも、第一に教育環境を整備するための対応が必要と考える。 ・学校の統合により、コミュニティが壊れると言うのではなく、その状況の中で、どうやって新しいコミュニティ作りをしていくのかという発想や逞しさが求められる。教育行政に対する要望だけでなく、新たなコミュニティ作り、そして、まちづくりにより、地域が連携していくこととなれば素晴らしいと思う。 ・40 人学級、35 人学級というのが話題として挙がるが、これは必ずしも全ての学級の児童数が 40 人、35 人ということではなく、その多くは、20～35 人程度となっている。 ・小規模校についての課題として、習熟度別の学習を行うことができないことも挙げられる。 ・中学校では、部活動に関して今後の課題があり、教職員への影響もある。 　今、外部化という流れが来ている状況だが、教育委員会ではどのように考えているのか。 ⇒委託にするのか、学校主導で少年団等に協力いただくのか、そのような組織を作っていくのか、また、負担の面においても、保護者負担はあるのか等、いくつか課題がある。国の動向を注視しながら、今後も進めていく。まだ具体的に示せる段階ではないので、方向性が固まった段階でお示ししたい。